

長崎北病院 伝言板 4月号

令和4年4月1日発行

4月。桜満開。暖冬になると開花が遅くなるかもしれないそうです。低温に晒（さら）されることで入る開花スイッチが、暖冬ではうまく入らないと言います。やはり何事も試練も必要。ぬくぬくと育つばかりでは花は咲きません。でも寒いのは苦手、暑いのもいや、わがまま。

学んで然る後に足らざるを知る

久しぶりに風邪をひきました。正真正銘「風邪」です。喉が痛い、咳が出る、声も枯れました。コロナ蔓延中とはいえ風邪も引くでしょう。しかし、このご時世、「風邪ですよ風邪」と言っても通りません。コロナの検査を2回受けて「陰性」を確認。それでも「ゴホン」とすれば視線の冷たいこと。患者さんからも「先生 コロナじゃないでしょうね、大丈夫ですか」と言われ、「検査は陰性です」と説明しても「本当ですか?」と言いながら既に逃げ腰。コロナの世の厳しさ、冷たさを実感しております。風邪ひくのも難儀です。それにしても歳のせいか治りが悪い。

4月。新人がやってきます。当院にも30名以上の新しい人が加わります。2019年までは法人合同入社式がありましたが、2020年からは分散開催。当院でも朝礼で新人を紹介し、5月には「新人歓迎ビアパーティー」を盛大に開催していましたがそれもできず。寂しいし悔しいですが仕方ありません。全体では集まれません。各々の職員が心から歓迎しています。

コロナ禍で学生時代に思うように実習ができなかった人も多いと思います。心配無用です。初期研修でしっかり教育し鍛えてくれます。新人は未来の戦力、最初はできなくて当たり前。そう考えています。しかし新人としては、不安や焦りが湧いてくる。

経験無き世界、知識も足りない。何もできない。しかし、悲しむなかれ。自分の力のなさ、知識の足りなさを自覚した人は幸せ。すぐに成長します。萌え出る若葉のような勢いで知識を吸収し伸びてゆく。何でも尋ねる、どんどんやってみる。

失敗するのも新人の特権。しばらくすると腫を上げて、胸を張り、前に進む時が来る。早咲き、遅咲き。個性はあれど必ず花は咲く。ようこそ新人。

新人を待っている私たち。昨年、5年、10年、それ以上前。スーツを着て緊張していた自分を思い出してください。自信满满だった方もおられると思いますが多くが緊張と不安の日々だったと思います。今は余裕? 新人が来ると通常の仕事をしながらさらに指導も。大変です。しかし、自分も当時はしっかり先輩の足を引っ張ったはず。それでも見捨てず、引きずり上げてくれた先輩がいたから今がある。新人の中に当時の自分を見ながら鍛えてください。

コロナ禍でリモートワークなどと言われますが、病院は開き続けること、職員はそこに居ることが基本。在宅回診、リモート看護、webリハなどありません。いわゆるessential workerなのです。社会の基本です。病院職員は一般の人よりもコロナや他の感染症にも接触する危険が多い職場です。自分も守らなければならず、患者さんも守らねばならない。緊張の日々が続きます。しかし、自分が選んだ道。働ける、働く喜びを持って歩き出してください。最近のウクライナの報道を見ていると、病院が破壊されたり、患者さんや医療従事者も傷ついている。患者さんがいれば医療従事者は戦う。同じ状況で自分ができるかわからないが医療を志す者の使命でもある。医療従事者の状況も悲惨であるが、将来医療に従事したいと思う若い人の状況はもっと悲惨。

医学を学ぶ道は断たれ、教育はできず、夢は持てない。戦争に行けば人を助けると逆を求められる。平和の中で医療ができる幸せを噛み締めながら仕事したい。よろしくお願いします。(A.S)

